

鶴見支部長 高橋利明 (S 5 5 年卒)

鶴見支部は、小学校22校、中学校9校、高等学校2校、養護学校が1校あり、校内会員は約140名、校外会員は約40名となっています。毎年、新会員も増加していますが、長い間教壇に立たれていた方々が退職を迎える時期でもあり、会員数と会費徴収も、思ったようには進んでいない状況です。

鶴見区政70周年を記念して選ばれた「鶴見見どころ十景」の「横溝屋敷と獅子ヶ谷市民の森」「三ツ池公園」「響橋(通称めがね橋)」「生麦魚河岸通り」などは今でも憩いの場として親しまれています。また、JR線・京浜急行線、路線バス等により交通の便も良く、人口も増加しています。平成29年は、区政90周年を迎え、官公庁をはじめ様々な関係機関が連携をもって、記念すべき年となるよう取り組んでいます。恒例の鶴見区賀詞交換会でも、鶴見区長をはじめとするたくさんの来賓、出席者で盛り上がりました。

鶴見区の特徴の一つとして、どの学校も地域との協力・連携体制が盛んで、様々な状況の中で子どもたちが明るく人なつく活気にあふれていることが感じられます。昔から地域に伝わっている伝統行事、祭り、歴史的な遺産・史跡などに加えて、各町内会・自治会、区役所等の主催するイベントが、盛大に開催されています。子どもも大人もともに参加し、ふれ合うことにより、地域の一体感が育まれています。

また、横浜市の様々な組織図・名簿・催し物などで、鶴見区は一番最初であることが多いです。私事ですが、校長の辞令交付式・校長会での自己紹介など、トップバッターの重責を担いました。友松会の総会・懇親会でも一番最初に掲載されています。多少の緊張感は伴いますが、一番であることは少しだけうれしく思います。

鶴見区の活動状況は、残念ながらあまり活発ではないのが現状です。ここ数年は「支部総会」も開催されていません。前任の支部長からも引き継ぎとして依頼されましたが、なかなか一歩踏み出せないで今に至ってしまいました。「総会」、「新春の集い」なども学校行事や地域の行事と重なることが多く、参加は少ない状況が続いています。幸い管理職やベテラン教員、OB会員には、友松会への愛着がある方も多く、便りをお届けするたびに、励ましの言葉をいただいています。今後も友松会の会員である自覚や喜びを胸に、若手会員への働きかけなどで、少しでも活動が広がるよう努力していきたいと思います。現在の横浜市の教育界は、様々な問題を抱え、厳しい状況が続くことが予想されます。そんな中でなつかしさとともに、潤いや温かさにふれることのできる友松会を、心の故郷としていつまでも大切にしていこうと思います。